

1. 目的

区市町村が実施するがん検診事業の評価を行い、課題を明らかにするとともに、区市町村にフィードバックすることで、自治体の現状認識・改善に向けた取組を促し、東京都全体のがん検診の質を高めることを目的とする。

2. 実施方法

都内62自治体における、がん検診の①実施状況、②プロセス指標、③市区町村用チェックリスト実施状況について調査する。

3. 各調査詳細

①実施状況調査	②プロセス指標調査	③市区町村用チェックリスト実施状況調査
<p>調査目的 指針に基づく検診の実施および指針外の検診実施状況の把握</p> <p>実施方法 東京都が作成した調査票を都内62自治体へ配布。集計は東京都立がん検診センターへ委託</p> <p>実施時期 令和4年10月</p> <p>調査対象年度 令和4年度実施検診分</p> <p>調査内容 ●指針に基づく、がん種（胃・肺・大腸・子宮頸・乳。以下「5がん」と言う。）・検診方法・対象年齢・検診間隔にて検診を実施しているか。 ●指針外の検診方法、対象年齢、がん種の検診を実施しているか。</p>	<p>調査目的 検診の質を確保するための「プロセス指標」の把握</p> <p>実施方法 ①と同方法で実施</p> <p>実施時期 ①と同時実施</p> <p>調査対象年度・内容 ＜令和3年度検診分＞ 検診受診率 ＜令和2年度検診分＞ 検診受診率、要精検率、精検受診率、 精検未受診率、精検未把握率 がん発見率、陽性反応適中度</p>	<p>調査目的 検診の質を確保するための「技術・体制的指標」の把握</p> <p>実施方法 国立がん研究センターから各都道府県への依頼により都が区市町村へ調査を実施。都は区市町村の回答集計・聞き取りを行う。</p> <p>実施時期 先行調査令和4年11月/本調査令和5年1月</p> <p>調査対象年度・内容 ＜令和4年度検診分＞ がん検診実施体制整備に関する調査 （調査項目例：受診者の情報管理、精検結果の把握、精検未受診者特定と受診勧奨、検診機関の質の担保等） ＜令和2年度検診分＞ プロセス指標把握に関する調査 （調査項目例：受診率、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応的中度等の集計等）</p>

4. 結果の公表

(1) 公表先

とうきょう健康ステーション「受けよう！がん検診」へ下記内容を掲載
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kensui/gan/>

(2) 公表時期

令和5年4～5月頃

(3) 公表内容

①実施状況調査	②プロセス指標調査	③市区町村用チェックリスト実施状況調査
<p>以下を区市町村別・がん種別に公表 詳細は資料2-4 ＜5がんについて＞ ・科学的根拠に基づく検診の遵守状況 ・指針外の対象者、検査方法の有無等 ＜5がん以外のがん種について＞ ・検診の実施状況</p>	<p>以下を区市町村別・がん種別に発表 詳細は資料2-5 ＜東京都の状況＞ ・がん検診受診率の推移 ・プロセス指標の推移 ・精度管理評価事業結果シート（都内の平均） ＜市区町村別の状況＞ ・各プロセス指標に関する棒グラフ、レーダーチャート</p>	<p>以下を区市町村別・がん種別に発表 詳細は資料3 ・がん部会にて区市町村用チェックリストの実施状況の評価基準（ABCDEの5段階）を設定 ・がん種別・検診方法別、各市区町村の実施率順の棒グラフ ・調査回答一覧</p>

5. 結果の活用

上記調査結果を区市町村支援に活用していく

・がん部会通知の発出

科学的根拠に基づくがん検診の実施、及びプロセス指標についてがん部会からの意見を通知

・チェックリスト通知の発出

チェックリスト実施状況をABCDEの5段階で評価したものを各自治体へ通知

・区市町村訪問

指針の遵守状況、プロセス指標、チェックリスト実施率をもとに訪問自治体を選定。精度管理向上を目的に助言・指導を行う。

・がん検診事業担当者連絡会

調査結果をもとに、がん検診の精度管理をテーマとした研修を企画。

【参考①】がん検診精度管理評価事業における受診率の算出について

【受診率の算出方法】

$$\text{受診率} = \frac{(\text{当該年度受診者数}) + (\text{前年度受診者数}*) - (\text{2年連続受診者数}*)}{(\text{住民基本台帳人口}) \times (\text{対象人口率})}$$

※「*」は受診間隔が2年に1回の検診に適用

●対象人口率について

区市町村が実施するがん検診は、他に受診機会（職場で事業主等が実施する検診など）がない者を主な対象者としているため、都では、5年に1度行う「健康増進法に基づくがん検診の対象人口率等調査」で得られた結果に基づき、区市町村の検診以外の受診機会（職場での検診受診等）がある者や、入院・長期出張等で事実上検診が受診できなかった者を除いた都民を「区市町村が実施するがん検診の対象者」とみなし、その割合を「対象人口率」として算出し、区市町村別がん検診受診率の算出に活用している。

<対象人口率（都全域）>

	胃	肺	大腸	子宮頸	乳	備考
H27年度調査	57.9%	64.8%	61.3%	64.2%	65.5%	～R1受診率に使用
R2年度調査	51.9%	55.3%	55.6%	57.8%	61.1%	R2～受診率に使用
増減（H27-R2）	△6.0%	△9.5%	△5.7%	△6.4%	△4.4%	

令和2年度調査の結果、前回調査（平成27年度）と比較して対象人口率が減少したことに伴い、対象人口率に基づき算出する対象人口も減少する。

そのため、令和元年度以前と令和2年度以降を比較した際、受診者数が減少していても、受診率が増加することがある。

【参考②】その他のプロセス指標の算出について

●当事業におけるその他のプロセス指標については、以下の通り算出している。

プロセス指標	各指標の意味	算出方法
要精検率	健診において、精密検査の対象者が適切に選ばれているかを測る指標	要精検者数/受診者数×100
精検受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標	精検受診者数/要精検者数×100
精検未受診率	要精検者が実際に精密検査を受診したかを測る指標	未受診者数/要精検者数×100
精検未把握率	精検受診の有無や精検結果が、適切に把握されたかを測る指標	未把握者数/要精検者数×100
がん発見率	その検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標	がんであった者/受診者数×100
陽性反応的中度	その検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標 （検診の精度を測る指標）	がんであった者/要精検者数×100